

## 平成31・32年度高知県剣道連盟昇段審査問題

### 初段

1 「基本の大切さ」について述べなさい。

剣道の基本は、家に例えると土台に相当する。つまり、立派な家を建てるためにはしっかりとした土台が必要になる。同じように、剣道でも上達するためには基本が重要である。

基本をしっかり身につけると、技術に無駄がなくなり、効率的で正確な技術が身につくようになる。

2 「基本打突や技の練習」で気をつけることを述べなさい。

- (1) 正しい姿勢で、気力を充実させ、互いの攻め合いから打突する。
- (2) 適切な間合いをとって、確実に気剣体一致の有効打突となるようにする。
- (3) はじめは「ゆっくり、大きく、正確に」を主眼とし、習熟するにしたがって「速く、強く、より正確に」打突できるようにする。

3 「試合に臨む心構え」について述べなさい。

試合をするときは勝敗のみにこだわらず、相手の人格を尊重し、正しい姿勢や態度、充実した氣勢で、正々堂々と公明正大に競い合う心構えが大切である。

平成31・32年度高知県剣道連盟昇段審査問題

二段

1 剣道で「礼儀を大切にすること」について述べなさい。

剣道を修練するうえで、互いに心を練り、身体を鍛え、技を磨くためのよき協力者として、内には相手の人格を尊重して常に感謝の念を持ち、外には端正な姿勢で礼儀を正しくすることが、剣道にとって極めて大切なことである。

稽古や試合の前後の礼法を立派に行うことはもちろんのこと、終始、正しい心、慎みの心、敬う心といった礼の本体を離れることなく、素晴らしい剣道を創造していくうえで、礼は大切な要素である。

2 「切り返しで気をつけること」を書きなさい。

- (1) 立合いの間合では、姿勢、構え、竹刀の握り方などを正しくする。
- (2) 連続左右面打ちの角度を45度ぐらいにする。
- (3) 振りかぶったときに、左拳を必ず頭上まで上げる。打ち下ろしたときには、左拳が下がりすぎたり上がり過ぎない。
- (4) 左拳は常に正中線上にある。
- (5) 相手の竹刀のみを打ったり、空間を打ったりすることなく、伸び伸びと確実に左右面を打つ。

3 「基本打突や技の練習で注意すること」を書きなさい。

- (1) 正しい姿勢で、気力を充実させ、互いの攻め合いから打突する。
- (2) 適切な間合から、打突の機会を的確にとらえ、大技で打突する。
- (3) 一打ごとに充実した氣勢で、確実に気剣体一致の有効打突となるようにする。
- (4) 手先や腕だけで打つのではなく、充実した氣勢と体を伴って腰から打突する。
- (5) 打突後は身構え、気構えなどの残心を取り、次の打突に備える。

平成31・32年度高知県剣道連盟昇段審査問題

三段

- 1 「稽古で心がけなければならないこと」とはどのようなことか述べてなさい。
  - (1) 竹刀の点検、準備運動、整理運動をはじめとした安全面に留意する。
  - (2) 大きな目標や研究心をもって取り組む。
  - (3) 礼儀作法を重んじる。
  - (4) 立合いの「初太刀」を大事にして、一本一本をおろそかにしないように、常に旺盛な気力で、精魂を込めて稽古をする。
  - (5) 基本に忠実に稽古をする。
  - (6) 仕掛けていく技を積極的に使って稽古をする。
  - (7) 稽古後は反省し、工夫・研究を怠らない。
  
- 2 「打突の好機」について説明しなさい。
  - (1) 相手の動作の起こり頭（出ばな）
  - (2) 技の尽きたところ（動作や技が終わったところ）
  - (3) 居ついたところ（身心の緊張がゆるんだ瞬間、気持ちで圧倒されたとき）
  - (4) 引きはな（退がる場所）
  - (5) 受け止めたところ（受け止めたところ以外に隙が生じる）
  - (6) 息を深く吸うところ（息を吸うときは、相手の動作が止まる）
  
- 3 「互角稽古で注意すること」を3項目書きなさい。
  - (1) 習得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した氣勢で真剣に行う。
  - (2) 相手を恐れず侮らず、相手と対等の気持ちで行う。
  - (3) 立合いの「初太刀」を大切に、一本一本に精魂を込めて打突する。
  - (4) 間合いのとり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくり方、技の出し方などを工夫する。
  - (5) 相手を選び好みしないで、つとめて多くの人と稽古をする。

## 平成31・32年度高知県剣道連盟昇段審査問題

### 四段

#### 1 「剣道が上達するための要件」を述べなさい。

「剣道の理念」や「剣道修練の心構え」についての理解を深め、自分なりの目標を持ち、一生が修行であることを自覚して、常に真剣な気持ちで修行をすることが大切である。

また、素直な気持ちで師の教えに従い、基本と応用に熟達するよう修練し、稽古の積み重ねと心の工夫に努める。こうした鍛錬的な実践と同時に、剣道を取り巻く理論的な研究を深め、形の習熟などによって理合を認識し、心身ともに健全な生活を送ることが大切である。

#### 2 「目付け」について説明しなさい。

目付けは、よい姿勢を維持するための目の役割とともに、相手の動きに対して、常に有利な体勢を維持したり、相手の変化に対応するための目の働きのことをいう。目は相手の顔面（目）を中心に、全体を見るようにするのが基本的な方法である。

目付けには次のようなものがある。

- (1) 遠山の目付け 一点を凝視するのではなく、遠い山をみるように、相手の全体に注目する。
- (2) 二つの目付け 特に相手の剣先と拳に注目する。
- (3) 脇目付け 相手の帯（腰）あたりに目を付けて、相手と視線を合わせないようにする。
- (4) 観見二つの目付け 心を見る「観の目」を強く働かせ、現象を見る「見の目」を弱く働かせて現象に惑わされないようにする。

#### 3 「懸待一致」について説明しなさい。

「懸」とは相手を攻めたり打ちかかる攻撃の意味で、「待」とは相手の動きを冷静に見極めながら出方を待つ意味である。懸かると待つは表裏一体をなすものであり、攻撃中でも相手の反撃に備える気持ちと態勢を失わず、受けにまわったときでも常に攻撃する気持ちでいることが大切である。

平成31・32年度高知県剣道連盟昇段審査問題

五段

1 「下位者と稽古をするときの留意点」について述べなさい。

「竹刀を合わせた二人は、剣道を修行する者同士である」という考え方が、下位者と稽古をするときの基本である。つまり相手が下位者であっても、自分自身の修行を忘れてはならないということである。

下位者であっても、自分と同等か、同等以上の者と稽古をするつもりで向かい合い、気力を充実させて「初太刀」を大事にして、一本一本に精魂を込めて打ち込むようにする。相手が下位者だからといって、自分勝手に一方的に打突するようなことはせず、下位者と合気になって、間合を正しくとり、基本に則った技を試みながら工夫を重ね、下位者のよい技は素直に認めてやるようにする。このような稽古が下位者のためにもなるのである。

2 「攻め・崩し」について説明しなさい。

相手を攻めて何らかの反応や変化があり、構えの崩れや心に動揺が生じたところを打突することが大切である。相手を攻めて崩すには、次の三つの方法がある。

- (1) 剣先によって攻める お互いが中段の構えで剣先を中心に付けて攻め合っている場合は、お互いに打突の機会が得られない。そこで、相手の竹刀に対して「触れる」「押さえる」「払う」「はじく」「張る」「巻く」などの剣先の働きにより、相手の剣先を中心から外して打突の機会をつくる。
- (2) 技によって攻める 相手が打突しようとする先に、自分から積極的に技を仕掛けることによって機先を制し、相手の構えを崩したり心に動揺を与えることで、自分に有利な打突の機会をつくる。
- (3) 気によって攻める 相手が打突しようとする兆しが出る前に、「打つぞ、突くぞ、抜くぞ」という、強い気迫で相手の打ち気を封じたり、削ぐなどして勝機をつかむ。

3 「審判員の心得」について述べなさい。

一般的要件

- (1) 公平無私であること。

- (2) 剣道試合・審判規則、運営要領を熟知し、正しく運用できること。
- (3) 剣理に精通していること。
- (4) 審判技術に熟達していること。
- (5) 健康体で、かつ活動的であること。

#### 留意事項

- (1) 服装を端正にすること。
- (2) 姿勢・態度・所作などを厳正にすること。
- (3) 言語が明晰であること。
- (4) 数多くの審判を経験し、反省と研鑽に努めること。
- (5) よい審判を見て学ぶこと。